

白方地区 村政懇談会（I部）

日 時：令和元年6月29日（土） 午前9時30分から午前10時50分まで
場 所：白方コミュニティセンター 多目的ホール

出席者：村執行部（村長，副村長，教育長，企画総務部長，村民生活部長，福祉部長，産業部長，建設部長，教育部長，議会事務局長） 計10名
事務局（課長，課長補佐，係長，地域づくり推進課職員3名） 計6名
自治会長（白方区，豊岡区，岡区，百塚区，亀下区，原子力機構百塚，豊白区，村松北区） 計8名

ワークショップ参加者：白方区5名，豊岡区4名，岡区4名，百塚区5名，亀下区5名，原子力機構百塚区3名，豊白区5名，村松北区5名 計36名

一般参加者：白方区6名，豊岡区0名，岡区0名，百塚区2名，亀下区2名，原子力機構百塚区0名，豊白区2名，村松北区3名，その他15名 計30名

司会進行：原子力機構百塚区自治会長 曳沼 裕一

総計90名

《次第》

開会

- 趣旨説明（白方地区自治会長：黒澤 一則）
- 2つのテーマについてワークショップ
 - 元気な高齢化社会の実現
 - 地域活動協力者の仲間づくり
 - ①進行役，発表者，記録者を決める
 - ②グループ討議
 - ③絞り込み及びまとめ
- ワークショップで出た意見の発表
- 村からの意見，感想等
- 自治会長から意見，感想等

閉会

《記録》

【1. 趣旨説明】（白方地区 黒澤自治会長）

雨の中大勢の皆さんに出席していただき感謝している。東海村においては，山田村長をはじめ，執行部の皆様にご臨席をいただき，また，このような機会を与えていただき感謝している。今年度の村政懇談会は，昨年度の要望及びそれぞれ各地域でかかえている諸問題について，昨年の趣旨を受け次ぐ意味で，二部構成で開催する。今年度は昨年の貴重な意見を生かして，それらの意見を集約した中で，それぞれグループ

白方地区 村政懇談会（I部）

ごとに協議を深めていき、実践活動に繋げていけるように協議したい。次の発展へと生かしていければと思う。

【司会からの案内】（百塚区 曳沼自治会長）

これから6グループに分かれ、1～3のグループでは、「元気な高齢化社会の実現」について話し合っていたいただく。具体的に1のテーブルでは「地域活動への今後の取り組み、支援等について」、2のテーブルでは「身体の不自由な人へのゴミ出し等へのサポートについて」、3のテーブルでは「各種行事への参加手法について」をサブテーマとして、各々話し合いを進めていただく。また、4～6のグループにおいては、「地域活動協力者の仲間づくり」について話し合いを行っていただく。同様に4のテーブルでは「行事が多く、プレッシャーを軽減するには」、5のテーブルでは「若い人を誘い地域の輪を広げるには」、6のテーブルでは「子どもを含めた人の集まる場をつくることについて」各々話し合いを進めていただく。

各テーブルには進行役と記録者を兼ねた発表者が決まっている。話し合いの中では、テーマについての課題を出し合い、それについて何ができるか、どんな解決方法があるかなど、様々な意見が出ることを期待している。また、それぞれのグループには自治会長のほか、オブザーバーとして役場職員の方々に参加していただいている。時間は30分間で、最後の10分間で内容をまとめていただく。また、グループに参加しない人は、各テーブル周りの椅子に座って傍聴していただく。

【3. ワークショップで出た意見の発表】

元気な高齢化社会の実現：地域活動への今後の取り組み、支援等について

1班（百塚区：増淵さん）

短い時間で8人の意見を統一するのは難しい。自治会8地区の問題点は何か。奉仕することの大切さをボランティア活動を通して、子ども達にも伝えていきたい。ボランティアは無料が基本だが、有料のボランティアや、ポイント制のボランティアがある。子ども達にポイントを与えて、地域の活動に参加してもらい、その要求する子ども達に対して大人が答えてあげる制度にする。世代間交流などを含めながら、子どもが興味を持てるものや、昔の遊びなど、子どもと親、子どもと地域間の関りに興味を持たせることが大切である。

食を通しての問題については、白方コミュニティセンターなどの厨房室を家族間に使用させること。友達同士でよくレストランなどで食事をすると聞く。高価なお金を支払っているのではないかと思う。そこで地域の白方コミュニティセンターの厨房室を使い、家族・子ども同士が合同で料理をし、会話をしながら食事をすることで交流が進み、子どもが大人になるうえでよい影響が与えられるのではないか。また、多目的ホールなどを子ども達と一緒に使い楽しめることがよいと思う。

白方地区 村政懇談会（I部）

白方地区でも地域ごとに個別の悩みがある。百塚は百塚の悩みがあり、例えば、亀下では農業が縮小していき、担い手が少なくなるという悩みがある。お互いこのような場で話し合いながら、ボランティアの中でマッチングさせていき、それが生きがいとなって返ってくるのが理想である。

元気な高齢化社会の実現：身体の不自由な人へのごみ出し等へのサポートについて

2班（白方区：日笠さん）

まずはなるべくごみを出さない。近所で協力し合って捨てる。生ごみは問題ないが、資源ごみは捨てる場所が遠く、高齢者が歩いていくには大変である。雨が降ると後回しになり、それが段々と増えごみ屋敷になってしまう傾向にあるのではないか。高齢化になり、免許を返納してしまうともっとひどくなると思う。改善策に3年4年かけてよい方法を考えていく。役場等に相談すれば、ごみをとりにきてもらうシステムがあると聞いている。これが高齢化社会になり、半分以上の高齢者がこの制度を利用することになれば大変になると思う。もっとよい方法がないか行政で考えてほしい。新聞も業者に渡している状態。業者が玄関まで取りにきてくれるので利用してしまう。行政が玄関まで取りにきてくれれば、業者を利用しなくてよいのではないか。この先、ごみ屋敷が増えることが不安である。

元気な高齢化社会の実現：各種行事への誘い方等参加手法について

3班（村松北区：鈴木さん）

各種行事への参加、特に男性の参加率が少ないとのことで、各地域でどうすればよいかを考えた。各地域でどんな問題があるかを話し合った。高齢者クラブ、自治会、また自主団体ではカラオケ、マージャン、吹き矢、グランドゴルフ、クロッケー等をやっている。参加者が多いところと少ないところに分かれていて、参加者も固定されていて、行事が自分の自治会に周知されていないのではないか。それについて回覧、掲示板、広報誌等で周知する。周知するだけではなく、隣近所、知人を通して、直接声をかけるのが効果的ではないかという意見が出た。初参加の人も優しく受け入れて、参加してよかったと思えるようにしたい。各人が得意とする分野で役割を継続するのも大事。これまでは集会所まで移動ができる健康な方の対象としていたが、これからは、体力的に無理な人等、行きたくても行くのに厳しい人のためにどうすればよいかを考えていきたい。

地域活動協力者の仲間づくり：行事が多く、プレッシャーを軽減するには

4班（岡区：橋本さん）

今年の役員改正では、地域によっては後任が決まらず苦勞したと聞いている。次の担い手の問題がある。社会的環境の中で、定年の年齢が60歳から65歳になり、さら

白方地区 村政懇談会（I部）

に延長という現状から、役員を引き受けてもらえず、一方で定年になった人に声をかけると、年齢的にもうできないという状態である。お互い協力し合える人間関係が欠けているのではないかと思う。

周辺のもともと住んでいる人達と、新しい住民との交流が少ないので、お互い協力し合う人間関係を築くのは難しい。これからは自治会だけで進めていかなければならない状態になっている。役員の中で運営している会の打ち合わせ等の情報を共有して、月1回程度の定例会議が必要かと思う。会議以外で役員同士の懇親を深め、仲間内で交流を図ることが大事である。

正副自治会長の関係は地域で違うが、副自治会長が次に正自治会長になるというところは問題ないが、任期満了の時に役員全員が代わってしまうのはどうかと思う。これから役員になる人達が安心して引き受けてもらえる環境を作っていくことが大事である。

活動内容については、今まで幅広く展開してきたところだが、このあたりで、全体の業務内容を見直し、地区自治会や単位自治会が共有できるものは共有し、内容の縮小ではなく、軽くする知恵があってもよいと思う。単位自治会の行事も、今までやってきたから今後も続けるという考えではなく、思い切って取捨してみて、それが負担軽減につながるのであればいいという意見があった。行事の軽量化、組織のシンプル化を進めることで、役員のなり手が少ないといった環境が改善されるきっかけになればと思う。

地域活動協力者の仲間づくり：若い人を誘い地域の輪を広げるには

5班（豊岡区：小林さん）

自治会に対して魅力がないのか若い人が参加しようとする意欲が感じられない。各自治会が積極的に行っている訳でもなく、父親や旦那さんの代わりに出席していたり、家庭環境によって出ていなかったりする状況である。女性中心にイベントが行われづらい状況にある。

現役世代が参加してもらうためには、家庭内に目を向けること。長年自治会に携わっている父親や母親と家族内で世代交代の時期をよく話し合い、少しでも早く若い子ども達が自治会等の集まりに出席できるような環境を作ることが大事である。現在の労働形態や家庭環境が以前とは違い、共働き、核家族、母子家庭、父子家庭の世帯などの家族が増えている。職種も様々で、土日や深夜に働きにでている人も多くなってきている。国をあげての政策が必要となるが、少しずつ改善されればよいと思う。自治会の行事の内容を若い人も参加しやすい雰囲気と内容に変更して、気軽な参加を呼びかけるようにする。子ども会も有効的に活用すれば女性や若い人がイベントに参加しやすくなると思う。実行委員にではなくて、若い人に積極的に声を掛けることなどの意見がでた。

白方地区 村政懇談会（I部）

成功例、失敗例があれば原因などを話し合うこと。年1回行われるお祭りは若い人の参加が目立っていたと思う。運動会などは高齢者が主体となり、参加しやすい簡単な種目が中心となっていたため、若者には興味を持ちづらく物足りなかった。カラオケなどは年配者と子ども中心になってしまい、中間世代が遠慮がちになってしまう傾向があった。一方で、お祭りは子ども会の参加もあり、強制的ではなく自主的に若い人が参加しやすい状況にあった。

お祭りはマンネリ化しているのです。対策としてイベントを若い人に任せたり、ゲームコーナーを増やしたり、女性に手伝いをお願いしたり、神輿を親ぐるみで作るなどの工夫をしている。小中学校のクリーン作戦やラジオ体操などのイベントを広げ、積極的な参加と交流に結び付けていくのがよいという意見が出た。

古き時代の世代と若い世代が手を合わせて、それぞれの意見に耳を傾け、自治会の先輩方は若い人に常に声をかけ、若い人も勇気をもって自分の意見を先輩方に提案していく心構えを持つことが自然に自治会を支えていくことにつながっていくと思う。

今後のために、来年の村政懇談会では各テーブルに1人ずつ女性の参加をお願いします。

地域活動協力者の仲間づくり：子どもを含めた人の集まる場をつくることについて

6班（村松北区：小野寺さん）

子ども会があるところとないところがあり、どのように子どもを引き込むかを課題として頑張っている。行事としては三世代交流会、お祭り、運動会などがある。原子力機構では子どもと一緒に草取りをするなどのユニークな活動もしている。子どもを引き込むということはその親も引き込むことである。

共稼ぎの家庭が多い中、なかなか子どもの面倒が見きれず、村松北などでは、時間がある高齢者がお互い交換し合って子どもを見てあげている。地域によって違いはあるが、原子力機構は子育て真最中の世帯が多い中、行事に出たいけれど出られないのが現状である。隣の自治会と行事を合わせて一緒にやることも一つの手段だと思う。行事をする時の目的を明確にして、周知していくことが大事だと思う。

お母さん方は子どもに常に勉強ばかり要求している。勉強ばかりして社会に出て挫折を味わって引きこもりになる人が増えている。子どものうちから、いろんな世代の人と交流を持ち、社会的刺激を少しずつ受けることが大事だと思う。地域としても、もう少し社会的刺激を受けられる場を提供できるよう努めていきたい。

行事については短い時間のものだと若い人にも参加しやすいと思う。目的、目標を明確にして地域活動をしていくことが大事だと思う。

【4. 村からの意見、感想等】

村長：限られた時間の中で、自分の意見をぶつけ、活発な議論が展開され、最後に

白方地区 村政懇談会（I部）

これを集約し、各グループともに、しっかりと発表することができた。これが形になっていかないといけないと思う。今日の話合いが最後ではなくて、第二部でも同じ話をしてもよい。今日結論がでるものではないが、問題意識を共有できたことが大事である。それぞれ地域に帰ってまた考えていって欲しい。

（1班）高齢者だけのグループを作って楽しむだけではなくて、子どもと一緒に楽しむ事で、世代をまたぐということは必要であり、食を通してコミセンをもっと活用していただくのはよい。いろんなことを始めるには準備や運営が大変だと思うが、目的を絞って、とりあえずやってみることが大事だと思う。新たなことに取り組んでいくことはよい。

（2班）可燃ごみは週2回の回収があり問題はないが、資源ごみに問題がある。今年度は、試験的に「ステーション方式」という当番者を決めないで場所だけ決めて都合のよい時間に持っていく方法について検討をはじめた。業者に勝手に持っていかれないように鍵をかけるなど管理等を含め、回収方法や住民の出し方について、行政の方で考えていきたい。

（3班）既にやっている人の中に入って行くのは、若い人でも、子ども達でも難しいと思う。入りやすくするには声掛けすると行きやすい。思い切ってサークルを広げていく。気の合う人たちだけでサークルを作るのもよいと思う。

（4班）他の団体も役員選出には苦労している。地域にデビューする時期が遅くなってきているのも原因である。負担を減らしてやりやすくする。引継ぎでマニュアル等があると思うが、出来るだけシンプルにして、新しい人に同じ事を求めないことが必要だと思う。その人にあったやり方で目的が達成できればよいと思う。新しい人に任せることがよいと思う。これは永遠の課題である。

（5班）本日も女性の参加が少ない。来年度は各テーブルに女性を1人ではなく、2人以上入って欲しいと思う。地域によってまだまだ男性中心となっている。変えていくには、当事者の声をいかに受け止められるか。「金は出すけど口は出さない」くらいの気持ちで女性に任せることで変わっていけるのではないか。自分たちが任せられているという安心した環境づくりが大事である。

（6班）村松北は高齢者が子ども会を運営している。家族中だけでも大変なのに、地域の全部をサポートするには難しいとなれば、高齢者の手を借りることも今後必要となってくる。

子ども達に、たくさんの体験や経験をさせてあげるためには保護者の皆さんの理解も必要になる。保護者の方々が過保護になりがちだが、子ども達の体験する機会を奪ってしまうので、若い保護者の方々に理解を求めると共に地域で受け入れる時には、1つずつ行事を実施して、成果をあげて、信頼関係を築いていくことが必要である。

すべてのテーマに当てはまるが、どうやって解決していくか、具体的な解決策は見つかっていないが、役場でも御意見をふまえてチャレンジしてみる。

白方地区 村政懇談会（I部）

これから皆さんからこのようなたくさんのお意見をもらえたらと思う。

副村長：時間が短くてなかなか議論を深めることが難しかったのかと思う。少子高齢化問題が課題になっているが、今まさに直面している現実的な課題である。地域の役員等をやらせてもらっているが、今回個別の6つの小さなテーマが、本当に身近な問題だと思っている。

今後、段階の世代が75歳以上になる2025年問題があり、そのあとに段階ジュニア世代が高齢者の仲間入りし、高齢者人口が2040年にはピークになると言われている。ここで取り上げたテーマが表面化していくのかと思う。

これら地域の担い手不足に対する様々な問題を聞いていると、将来に対して暗くなり、自分の子ども達の将来が大丈夫かと不安になる。今回のようなワークショップの様子を見ていると、高齢化社会をマイナスとしてとらえるのではなく、話し合いを通して新たなコミュニティを再生する機会と前向きにとらえて取り組んでいければと思う。地域の自治会を始めとするコミュニティを旧来型の在り方ではなく、新しいやり方を模索できればと思う。自分たちの若い時代とは社会的背景が全く違うと思うので、今の若い人たちのライフスタイルに沿った、最適なコミュニティの在り方を一緒に模索できればと思う。

今回発表された意見の中には、子どもを含めたポイント制などを作ってみてはどうかなどがあったが、行政が今後取り組んでいくためのヒントがあったかと思う。行政が全てできるわけではないので、地域と村が補完し合いながら解決に向けて進めていければと思う。

今後、できれば若い人達と女性がバランスよく配置されたグルーピングをして、来年以降も取り組みを進めていただければと思う。

白方地区井上副自治会長：元気な高齢化社会を実現するためには、各自の健康な体力づくりが主体になると思う。健康な体力づくりをするためには、熱心な指導者が必要であり、今後、行政と相談し考えていきたい。百塚区では健康な体力づくりのために、今年で7年目になる。毎週土曜日のラジオ体操及びストレッチ体操、簡単な脳の体操などに取り組んでいる。

資源ゴミを出すためにボランティア活動が必要ではないかと話がでたが、宮城県の自治会では「サポーターポイント制」というのを設けている。今後行政でも考えてほしい。

白方区鎌田自治会長：昨年からはワークショップの形式を変えての開催は2回目となった。いろんな意見が出され、それに対するの対策がでたところまで追いついたものもあった。地区で集まって協議をすることはなかなかできないので、来年度も続けてい

白方地区 村政懇談会（I部）

きたい。

I部閉会

以上